

皇學館

学園報 第65号

発行・編集
学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大 学 大学院 専攻科 〒516-8555
文学部 教育学部 三重県伊勢市神田久志本町1704
現代日本社会学部 TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704
高等学校・中 学 校 三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

注目記事

- 2 面
地域連携トピックス
地域と大学の地・学連携が加速
- 3 面
平成28年度内定状況(中間報告)
企業内定者数すでに
昨年度卒業生ベースに到達!
- 4・5 面
"皇學館らしさ"満ちた学園祭
- 6 面 (高校・中学校)
家庭に感謝する日の行事 ほか
- 7 面
皇學館中学校
「グローバル人材」育成に向け
充実のカリキュラムを展開
- 8 面
セント大学夏期英語研修
参加者インタビュー



今回の企画では空き家を提供する地域側と学生(大学)が良好な関係を築いてきたことも成功の一因となった

地(知)の拠点 CLL活動レポート

学生の活気と アイデアがまちを元気に

COC事業(地(知)の拠点整備事業)の一環として、本学学生が圏域の課題に取り組みCLL(コミュニティー・ラーニング・ラボ)活動が2年目を迎えた。今回は、「伊勢河崎商家リノベーションプロジェクト」と「玉城産豚ブランド化プロジェクト」が共同で出店した「伊勢河崎商人市」の様子を報告する。



アオサの風味いっぱいの伊勢うどん

多彩なつながりから企画が発展
秋晴れの十月二十三日。伊勢市河崎一帯で行われた「伊勢河崎商人市」で、ひととき賑わう町家が。ひとつは「伊勢河崎商家リノベーションプロジェクト」。伊勢市河崎の古い町家、蔵、商店などを改装してまちを活性化しようと、専門家の指導のもと、実践的に学んできた。今回の出店は同プロジェクトの一環としてスタート。イベントを盛り上げようと「伊勢うどん」の販売を決めたが「それだけでは訪れた人が物足りないのでは」と考え、地方産品の高付加価値化に取り組む「玉城産豚ブランド化プロジェクト」メンバーに呼びかけた。

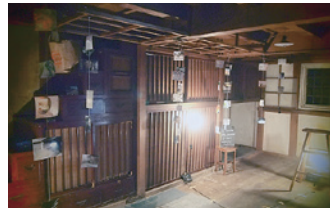
「蔵物語」は二つのCLL活動がタッグを組み生まれた。一つは「伊勢河崎商家リノベーションプロジェクト」。伊勢市河崎の古い町家、蔵、商店などを改装してまちを活性化しようと、専門家の指導のもと、実践的に学んできた。今回の出店は同プロジェクトの一環としてスタート。イベントを盛り上げようと「伊勢うどん」の販売を決めたが「それだけでは訪れた人が物足りないのでは」と考え、地方産品の高付加価値化に取り組む「玉城産豚ブランド化プロジェクト」メンバーに呼びかけた。

「自ら気付く、考え、動く」
出店を通して大きく成長
活動にあたり、学生らは家主の榎本さんや河崎のまちづくりに関わる人から話を聞き、まちの歴史や背景を知ったうえで企画を練った。「伊勢うどん」に決めたのも季節感や河崎(伊勢)らしさを出した現代日本社会学科二年

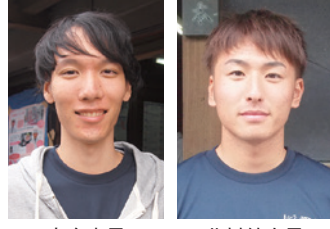
また学生同士の横のつながりから写真部が蔵で作品を展示し、軽音楽部とギターマンドリン部がレングラでライブを行うという企画に発展。部活・サークルの輪が広がり、約四十人の学生が関わる一大プロジェクトとなった。
このCLL活動を指導する池山敦教育開発センター助教は「今回の出店を通して、「自ら気付く、考え、動く」という面で学生の大きな成長を感じた。食材の発注なども学生が担い、社会人と接する良い機会にもなった。このような主体的な関りが、今後さらに地域に関わる意欲の高まりにつながれば」と話し、地域と学生の橋渡しを担った伊勢まちづくり会社の江崎明裕さんは「空き家の活用など、地域が抱える課題」と、学生のやりたいこと「は似る部分が多いと分かった。今回をきっかけに、学生の発想をもっと地域づくりに活かしていきたい」と語った。学生らの今後の活躍に期待が高まる。



甘い脂身が特徴の玉城豚。香ばしい匂いに誘われ、いつしか長蛇の列が



蔵の雰囲気に合わせて、一風変わった趣向を凝らした写真展示



古布廉君 北村航大君

これらのCLL活動を指導する池山敦教育開発センター助教は「今回の出店を通して、「自ら気付く、考え、動く」という面で学生の大きな成長を感じた。食材の発注なども学生が担い、社会人と接する良い機会にもなった。このような主体的な関りが、今後さらに地域に関わる意欲の高まりにつながれば」と話し、地域と学生の橋渡しを担った伊勢まちづくり会社の江崎明裕さんは「空き家の活用など、地域が抱える課題」と、学生のやりたいこと「は似る部分が多いと分かった。今回をきっかけに、学生の発想をもっと地域づくりに活かしていきたい」と語った。学生らの今後の活躍に期待が高まる。

今となっては信じられないかもしれないが、かつて、大学では教師がノートを延々と読み上げるだけという講義があった。元来は講義一回に対して、一つの論文を書いてそれを聞かせるというものである。それが、新作ではなく万年ノートとなり、世の批判を受けてそうした授業はなくなった。人は誰も自らがやってこなかったことに違和感を持ち、やってきたことを伝統的、正統派だと感じてしまうものらしい。▼現在の講義型の授業形態が伝統的で、アクティブラーニングが前衛的というのも今の中年以上の世代の経験だけに基づく捉え方だ▼「なぜ、教えない授業」が学力を伸ばすのかの著者である山本崇雄氏によれば、アクティブラーニングは必ずしも新しい教え方とはいえず、江戸時代の寺子屋もアクティブ・ラーニングのスタイルだったのではないかという。なるほど「江戸東京デジタルミュージアム(東京都立図書館)の「文学万代の宝」の図をみるとそれが了解される▼本居宣長の「鈴屋門居の図」は歌会だが、鈴屋での講義もサロンのような雰囲気をもって対話していたのであろう。温故知新といえようか。



学生約百五十名が初穂曳行事に参加

清々しい秋晴れとなった十月十五日、「神嘗奉祝祭」初穂曳行事に学生約百五十名が参加した。初穂曳は神様に新穀を捧げ豊穣に感謝する「神嘗祭」にあたり、その年に収穫された初穂をお納めするもの。二十一年に一度行われる「お木曳き行事」の技術・文化を継承していく意味も込め毎年実施されている。

本学では神嘗奉祝委員会のご配慮により、平成十九年度より毎年一年生を中心に初穂曳に参加させていた。御垣内参拝をさせていただいた。曳会のメンバー十三名も本行事に向け伊勢神宮奉仕会の方々の指導のもと、木遣りの練習に励んできた。

当日、鮮やかな紫色の法被を着た学生たちは地域の子ども会などとともに一番車を奉曳。尼辻交差点から外宮まで約一キロの道のりを、途中、本学奉曳会の音頭で綱を上下に振ったり左右の綱を中央に練ったりして楽しみながら進んだ。外宮北御門到着後は本学奉曳会の学生を中心に初穂を五丈殿に奉納し、御垣内参拝をさせていただいた。



皇學館奉曳会のメンバーらが声掛けや身振り手振り等で盛り上げ、初めて参加する学生たちをリード

良い思い出」と笑顔で語った。なお、当日の様子は皇學館大学TV第三十二回「初穂を手にく学生たちの初穂曳」としてYou Tubeにアップされている。なお、来年度の初穂曳に向け皇學館奉曳会メンバーを募集している。入会希望の方は学生担当まで問合せください。

地域連携トピックス

地域と大学の地・学連携が加速

産学協働による人材育成、着実に成果

平成二十五年十一月に民間企業としては初となる連携協定を株式会社三重銀行・三重銀総研と締結し、次世代の地域人材育成を積極的に進めてきた本学。スターティングプロジェクトであった産学協働講座「グローバル化と地域の経済社会」の開講から満三年となる今年、その手応えを講師のお一人である別府孝文先生(三重銀総研調査部長)に伺った。

生の一次データにあたり、自分で考える力をつける

七割が県内出身で地元企業への就職が多い本学の学生が、地域の社会・経済を世の中の動きと関連付けて学び、また、人文学系を専門とする者で



金融の最前線に立つプロの視点から世界の動向と地域の社会・経済を解説



別府孝文先生

座「グローバル化と地域の経済社会」(二年次・半期二単位)。ご担当いただいた別府孝文先生(三重銀総研調査部長)は「我々が教えらるるの経済学や政治学などの学問ではなく、実務に近い生きた知識。人文学系の学生さんが日々のニュースなど社会科学系の事柄に興味を持ち、関心を広げるきっかけになれば」と思いを語る。

授業ではグラフを用いることが多い。その狙いについて、「テレビや新聞

を通じてものごとを考えたいというのも大事ですが、生の一次データにあり、一旦自分なりに考える癖を身に付けてほしい」と別府先生。「数字から何を読み取り、どう業務に結び付くのか、企画書を提案する際にも分析力が必要になってきます」。

近年、多種多量のデータ(ビッグデータ)を用いたビジネス展開に注目が

レポート提出により理解が深化

「現場のリアルな情報」がわかるほか、日本と世界との付き合い方といったグローバルな視点から三重の産業構造や現状などミクロな内容まで、先生がとても丁寧に説明してくださるので、何も知らない僕でもわかりやす

る動きがすでに始まっている。そうした地域の動向などにも触れながら授業を進めているという。

るよい機会になった」と満足気に語る。授業を受けてから新聞に目を通すようになり、ニュースにも関心を持つようになったと話す御邊君。将来は公務員をめざしていると言

神事をはじめ国技である相撲など日本の伝統文化に不可欠な素材でありながら、存続が危ぶまれている「精麻」。その生産技術の継承と安定的かつ持続的に生産できる体制を伊勢の地に構築するべく設立された一般社団法人伊勢麻振興協会が改組され、本法人の佐古一洵理事長が代表理事に就任した。十一月四日、本学大会議室にて行われた記者会見では現在しめ縄や神事の道具に使われている麻の九割が粗悪な外国産や化学繊維に取って代わられている現状が語られ、同協会が十一月中旬に大麻栽培許可を県に申請することなどが発表された。

すでに成果を出しつつある産学協働による次世代の地域人材育成。今後どのように花開き実を結ぶか、注目だ。

図書館サークル「ふみくら倶楽部」が地元の文化資源を発掘発信

「ウィキペディアタウン伊勢」&「伊勢河崎一箱古本市」

本学附属図書館との協働を目的として、本年二月に活動を開始した図書館サークル「ふみくら倶楽部」の学生たちが、地域とつながるプロジェクトを進めている。

「イータウン」は、みんなできちんとあるべき地元の文化資源を確認し、文献調査をもとにウィキペディアの情報更新を行うワークショップのことである。この三、四年の間

おり、三重県内に限れば本学が初めて、東海地域でも二番目という全国的にも早い事例となった。今回は伊勢市立図書館のご協力のもと、九月十七日に「伊勢河崎商人館」「伊勢うどん」「伊勢

春慶」「萬金丹」「伊勢市立図書館」のウィキペディア項目の編集を行った。また、みかん箱サイズの箱一つ程度の古本を参加者が持ち寄り、地域住民が本を介して交流するフリーマーケット「一箱古本市」を河崎商人市で実施したり、倉庫祭のなかで「伊勢うどんトークライブ」を企画したりと、活動開始初年度にもかかわらず、同サークルでは活動の幅を広げてきた。これらの成果を学外へ発信するために、十一月八日から十日にかけて横浜で開催された図書館総合展で、ポスター発表を行った。最終日のフォーラム「第一回全国学生協働サミット」では、部長

宇治山田駅前に「皇學館大学まちなか研究室」開設

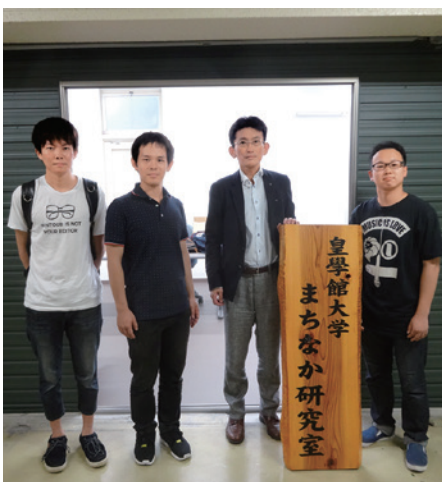
伊勢市・伊勢商工会議所・本学の三者で取り交わした「地域連携活動拠点の整備に係る産・官・学連携覚書」(平成二十八年七月八日締結)に基づき、近鉄宇治山田駅前にある宇治山田駅ヨッピングセンター内に連携活動拠点「皇學館大学まちなか研究室」の整備を進めてきた。九月末に拠点

となる空き店舗の改修工事が終わり、十月から活動を開始した学生たちは近隣の挨拶や今後の活動方針に関する伊勢商工会議所との打合せ、パソコンや机・イス等の備品手配等を行っている。

本格的な稼働はこれからは次のようになっている。「三者は、若者が集う

ことによる賑わいの創出とその情報発信に努め、地域活性化に貢献するため、中心市街地にある空き店舗等をサテライト教室として活用し、産官学の連携によるアクティブラーニングの導入及び皇學館大学生の地域における連携活動拠点を整備するものとする」。

日本社会学部授業「社会臨実習」受講学生が実行委員会を組織し、開設記念オープニングセレモ



地域の魅力を知り、発信する場に

ニーが執り行われた。今後の活動としては、まちづくり協議会とのタイアップによる世代間交

現代日本社会学部教授 筒井琢磨



伊勢市立図書館で文献調査とウィキペディアの編集作業を行う学生たちの様子。(平成28年9月17日)



図書館総合展フォーラム「第1回全国学生協働サミット」でふみくら倶楽部の活動報告を行う岡野ひかりさん(国文4年)。40の参加大学、観客を含めて300人超が集まり、学生活動と大学図書館の協働のあり方が熱く語られた。(平成28年11月10日)

わらず、同サークルでは活動の幅を広げてきた。これらの成果を学外へ発信するために、十一月八日から十日にかけて横浜で開催された図書館総合展で、ポスター発表を行った。最終日のフォーラム「第一回全国学生協働サミット」では、部長文学部国文学科准教授 岡野裕行



同協会顧問の安倍昭恵首相夫人からの祝電も披露された

る人は多く、誤解や偏見は根強い。本学現代日本社会学部長で同協会理事の新田均教授は日本の大麻(精麻)についての正しい認識を広め、伝統を継承していきたいと話す。

内定率七四・五%

平成二十八年 内定状況 ― 中間報告 ―

企業内定者数、すでに昨年度卒業生ベースに到達！

経団連は、昨年度の選考スケジュール変更による混乱から、今年度は広報活動を三月解禁のまゝ、採用選考のみ八月開始から六月へと二カ月前倒しに変更した。本学学生は準備を整え大きな混乱もなく就職活動は順調に進み、十一月一日現在、平成二十八年卒業予定者の就職希望者の内定者は七二・二％（一〇一現在）

一般企業 支援体制強化と学生の努力が奏功

継続的に良好な景況感を背景に「将来の経営業績の見直し」と「従業員の年齢構成」が要因となり、採用人数を「増やす」企業が「減らす」を上回った。企業の面接開始は四月～五月にかけてピークとなり、六月中旬頃から内々定出しが始まったが、中小企業ではそれよりも早く内々定出しを始めたところも多かった。八月末には大企業も含め一週り選考は落ち着いた。大卒求人倍率は一・七四倍（リクルートワーク

公務員 競争倍率等、受験前の情報収集も重要

た、この一年間の個別相談者数は延べ三五三三名（前年三〇五五名）と一五％増となっており、学生と就職アドバイザーの努力が実を結び、今年の結果につながったといえる。公務員事務職において依然として志願者が多く、競争倍率は高止まり傾向が続いている。三重県内では採用人数の増減や受験資格の変更等から、競争倍率に大きく影響した自治体もあった。松阪市は受験資格で年齢延長の変更により一・二倍→二・四・五倍、伊賀市は採用人数の減少により二・三・七倍であった。

神社関係 昨年度同様の求人数を確保

神社関係の求人状況は、十一月一日現在で、九十九社一七〇名の求人をいただいております。昨年度同時期の九十五社一四五名に比べて四社二十五名増加し、現状では昨年度同様の求人数を確保出来る状況になっている。この求人数の多さに対し神職課程履修者が少ないため、早い段階で採用内定をいただく学生が増え、奉職希望者に対する採用内定率は七五

就職関係 一三二名が教員に合格

（平成二十八年度教員採用試験）

三重県小学校現役合格者数は改組以来最多

平成二十八年度教員採用試験の結果が発表され、本学からは三重県で一〇八名、他県では二十四名（現役のみ）が合格を果たした。とくに三重県小学校は採用枠が減少した中で現役が三十八名（教育学部三十三名・文学部五名、昨年度比七名増）と平成二十年度に教育学部へ改組以来、最も多い合格者数となった。なお三重県全体の合格者二四七名のうち本学は既卒を

三笠宮崇仁親王殿下薨去

十月二十七日、三笠宮崇仁親王殿下が御年百歳にして薨去されました。謹んで哀悼の意を表します。三笠宮崇仁親王殿下には昭和五十九年九月、本学で開催された日本宗教学会の学術大会において、「古代エジプトの神々―日神崇拝を中心として」との演題でご講演を賜りました。また、御長男の寛仁親王殿下には昭和五十一年の倉敷祭において「ほんものとは何か」の記念講演を賜り、平成二十四年に執り行われた創立百三十周年・再興五十周年を祝う記念式典には杉子女王殿下の御台臨を仰ぐなど、三笠宮家とは深い御縁をいただきました。

平成28年度実施 三重県公立学校教員採用選考試験結果			
校種・教科等	現役	既卒	皇大計
小 学 校	38	49	87
国 語	1	3	4
社 会	1	5	6
保健体育	0	2	2
英 語	1	1	2
中 学 校			
国 語	1	0	1
特別支援学校	0	6	6
合 計	42	66	108

三重県以外（現役のみ）			
高 等 学 校	神奈川県（国語）	1	
特別支援学校	岐阜県	1	
小 学 校	神奈川県	4	
	川崎市	1	
	横浜市	1	
	富山県	1	
	長野県	1	
	静岡県	1	
	浜松市	1	
	愛知県	3	
	岐阜県	3	
	大阪府	2	
	堺市	1	
	和歌山県	1	
	兵庫県	1	
	愛媛県	1	
	愛媛県	1	
	合 計	24	

私の就職活動◆金融編

早めの準備がカギともいえる就職活動。今回は、金融系企業の内定を獲得した先輩たちの生の声を紹介します。

- ① 志望理由
- ② 力を入れたこと
- ③ 苦労 工夫した点
- ④ 一口アドバイス



吉野智香(国文) 【内定先】百五銀行

① 信頼の上に成り立つ仕事である点。② Mockテスト対策。③ 経済に無知であったため、本や時事ニュース、日経新聞を読んだ勉強した。④ 早めにCAB・GAB対策を！



それぞれの違いや特徴をつかみ、自分がそこを希望する理由、根拠を明確にしておくこと。④「伊勢志摩定住自立圏共生学」は地域の動向や事例など、地元のことがよくわかる。

小林真子(国史)

【内定先】三重信用金庫
① 取得する資格が多く、多彩な職業に触れることができる。② SPI・一般常識。③ 三重県は信用金庫や銀行が多いので、指導を徹底。三名の教員アドバイザー（校長経験のある本学OB）と五名の職員が進路相談や履歴書・論文添削、集団討論等面接練習を行っている。試験直前期には学部教員による実技特訓（ピアノ、器械運動、リスニング）を実施。また、一年生から個人面談および論文指導を受ける。

菅尾浩基(コミュ)

【内定先】第三銀行
① 厳しい環境で自分を成長させることができる。② SPI・一般常識。③ 銀行のMockテストはとくに時間が足りないのので対策を怠らないこと。



④ ニュースを見て世の流れをつかむ。



① 信頼関係、お客様の思いを大切にしたい職業だから。② 自己分析。③ 志望動機や自己PRなどエンタリーシートの書き方がわからず苦労した。④ この業界をめざすという強

田中康生(コミュ)

【内定先】第三銀行
① 地域経済の発展に大きなつながりを持つ点に魅



【内定先】第三銀行
① 地域活性に役立てるから。② 一般教養とWebテスト対策の勉強を毎日一時間欠かさず行なった。③ 人前で堂々と話せる練習をした。④ 自身の人となりをもっと伝えるため、自分研究をしっかりとやる。

菅瀬一真(教育)

【内定先】三重銀行
① 一次試験突破のため、対策本で常に勉強。③ 面接で自分に興味を持ってもらえるよう、どうアピールするか。④ 新聞に目を通すことを習慣付ける。



【内定先】三重信用金庫
① 地元企業や地域の支援のおかげで倉田山球場ができ、僕の野球人生につながった。今度は支える側になりたいと思った。② 一次試験突破のため、対策本で常に勉強。③ 面接で自分に興味を持ってもらえるよう、どうアピールするか。④ 新聞に目を通すことを習慣付ける。

林 初現(目)

【内定先】三重信用金庫
① 力を感じた。② SPI対策。③ SPIは難しい問題が多く時間制限もあるため慣れるのに苦労した。④ 自分の強みや弱み、周りからどう見られているのかなど、自分を理解することが内定の近道。

資格と授業で学んだ経験が自信に

国文学科四年 萩 映 輔
【内定先】三重県信用金庫組合連合会



将来を見据えるにあたり、まず何をすべきかわからなかった僕は、どんな業界であれ「お金に関する知識は必要になる」と思いました。同プログラムではそれまでまったく知らなかった金融の世界を段階を経てきめ細かく教えていただき、本当にありがたかったです。

専門用語にしても、独学なら暗記するところを、授業では背景や根拠を解説しながら進むため、すんなり頭に入りました。おかげで、ファイナンシャルプランナーの資格をとることができました。

面接では「人文学系だが、金融業界でやっていけるのか」と何度も尋ねられましたが、資格と授業でしっかり学んだ自信があったので、自信をもって答えることができました。就職後は今以上に勉強の日々になると思いますが、努力を怠らず、積極的にチャレンジしていきたいと考えています。

自ら進んで学ぶ姿勢があれば、人文学系だからといって決して不利ではありません。後輩の皆さんもまずは行動し、自分を高めていってください。

キャリア・コンパス・プログラム 受講者インタビュー

第54回

皇高祭

9/15(木)・16(金)

テーマ FIND YOUR HEART

協力し合うことで成し遂げられる

校友会総務副委員長 志村日向

皇高祭の1日目は伊勢市観光文化会館で開催されました。講演会では皇學館大学の近藤玲介先生から「伊勢志摩の自然環境の過去～ミライ」という題で講演をしていただきました。伊勢志摩の地形や自然環境を詳しく教えていただいたので、普段何気なく見ている景観の意味を一層深く考えられるようになりました。アトラクションではNYT(バイオリンとギターのインストゥルメンタルデュオ)の演奏を楽しみました。楽曲はオリジナル曲をはじめ、クラシック、アニメ、映画音楽など私たちになじみのある曲が多く、ドラム、キーボードさらにダンスの皆さんと会場全体がライブを創っていく演奏スタイルだったのでとても盛り上がり、全員の気持ちが一になったような気がしました。

2日目は学校で開催され、クラス、クラブ展示や有志発表などがありました。とくにクラス・クラブ展示ではそれぞれが趣向を凝らした企画を披露し、活気あふれる展示、模擬店となったのが印象的でした。同好会や有志による発表もみんなを楽しませてくれ、校友会企画の「宝探し」も生徒全員の協力があつたので大成功に終わることができました。二日間の皇高祭を通して、どんなに難しそうに思えることでも仲間と協力し合うことで成し遂げられるということがわかりました。この皇高祭で学んだことを今後の行事の中で生かしていきたいと思います。



1日目に行われた近藤玲介先生による講演会



盛り上がったアトラクション

祭典

厳肅な雰囲気で行われた「祭典」。参列者一同が頭を垂れ、お招きした神様に本年度の文化祭の意義を申し上げるとともに、学業を修められたことへの感謝の気持ちと、その成果をご奉告。そしてこれから行われる文化祭の無事と、教職員・生徒一同が今後もますます元気で明るく勉学に励めるようにお祈りを捧げた。



吹奏楽部発表

昨年に続いて今年も三重県吹奏楽コンクール優勝を果たした吹奏楽部は難曲の「華麗なる舞曲」、そしてポピュラーな「情熱大陸」などの演奏に加え衣装を着替えてのダンスパフォーマンスも披露。全員の拍手と手拍子で会場は大いに盛り上がった。部員にとっては友人や後輩に舞台を見てもらえる嬉しい発表の場となった。



2年8組
折り紙アート展示

2年8組は折り紙を使って教室内に折り紙アートを展開。7月から準備を始め、およそ1500枚の折り紙を使って男子はピンク色の桜を、女子はヒマワリの製作を担当した。桜の木に花が咲きその周りにヒマワリの道があるというイメージで約2カ月をかけて完成した。教室一面に花が散りばめられた心地よい散歩道ができあがった。

家庭部

家庭部は例年のように手作りのクッキーとマドレーヌの販売を行った。8月下旬から部員50名が腕によりをかけて作ってきた。クッキーは400セット、マドレーヌは300個用意したが両方とも毎年美味しいという評判で、チケットもすぐに完売という盛況ぶりだった。



写真部展示

写真部は今年7月に全国高校総合文化祭に出品した作品を含め、白黒フィルムからプリントした20点の作品をパネルで展示した。友人や家族、学校生活をテーマに身近な人たちの素顔や表情をとらえた作品が多く、来場者の目を引いていた。今年も昨年同様、華道部展示と合同で実施し、落ち着いた雰囲気の展示となった。



第37回

皇中祭

10/22(土)・23(日)

テーマ 未知なる世界へいざ出航!
～燃えるHEARTを解き放て～

ぶつかり合い、悩んでこそその達成感

校友会総務委員長 江藤朋華

今年の皇中祭は私にとって最後になる皇中祭、また総務委員長として臨んだ皇中祭でもありました。皇中祭に先立ち、準備を行う中で辛く苦しい日々が続いたことも本部役員同士でぶつかり合ったこともたくさんありました。

しかし、今ではすべて良い経験だと感じています。なぜならぶつかり合うこと、悩むことなどがなければ、皇中祭はこんなにも達成感であふれたものにはならなかったと思うからです。「優勝」という大きな目標に向かって団結し、私に刺激を与えてくれたクラスメイトをはじめとする全校生徒、先輩方、いつも温かく見守ってくださった先生方や保護者の方、そして本部役員を含めた皇中祭実行委員…これらたくさんの人の協力があつたからこそ、今年の皇中祭テーマ『未知なる世界へいざ出航!～燃えるHEARTを解き放て～』に沿った素晴らしい皇中祭を創り上げることができたのだと思います。今はただ、感謝の気持ちでいっぱいです。



合唱コンクール

優勝は3年B組の合唱曲「桜」。会場の記念講堂には美しいハーモニーが響きわたり、歌詞とともに歌い手それぞれの思いがグングン伝わってきた。3年B組の合唱は当日が一番よい出来だったという。どのクラスもすばらしい合唱だったが、とりわけ最上級生の洗練されたハーモニーが印象的だった。



皇中祭実行委員

第37回皇中祭の企画・運営にあたり、校友会本部役員のもとに集った有志の皇中祭実行委員たち。パンフレット作成や花壇づくりなど、舞台裏でも献身的に役割を務め、皇中祭を成功に導いた。

B・R・B(ブック・レビュー・バトル)

今年度で2回目を迎え、すっかり皇中祭行事として定着したB・R・B。朝の読書の時間で読んだ本を取り上げ、その書評を競い合った。発表者の表情が前回よりもいっそう豊かに感じられ、発表を聴いた生徒たちも紹介本を手にとってみたくなる発表だった。

今後の朝の読書の取り組みにも期待したい。



クラス展示

各クラスともに来場者を退屈させない「おもてなし」の気持ちが満ちあふれていた。結果は2年B組「世界に伝えよう!日本の伝統文化～見て触れて感じよう～」が優勝に輝いた。ICT機器を活用し、展示物、映像にも工夫を凝らした点が高く評価された。

花販売・赤い羽根募金

サンラウンジ(2階)では花販売、赤い羽根共同募金が行われた。花販売の収益は熊本地震の復興支援に送られ、赤い羽根募金は伊勢市社会福祉協議会へ寄付された。



皇學館大学よさこい部「雅」も皇中祭を盛り上げた



学園祭レポート

“皇學館らしさ”満ちた学園祭

学生・生徒が主体となって創り上げる年に一度の大イベント・学園祭。今年も各学舎で“皇學館らしい”特色を生かした行事が企画され、さまざまな場面で学生・生徒たちの成長が見られた。秋のキャンパスには市内外から保護者や一般市民が訪れ、活気づいた。

第55回

倉陵祭

10/28(金)~30(日)

テーマ 円—まどか—

人のつながりに助けられた

倉陵祭実行委員長 足立 涼

昨年の倉陵祭で奏でた響きを受け継ぎ、紡ぎ、今年参加されるすべての人が穏やかに円満になれる倉陵祭をつくる——そんな願いを込めて「円(まどか)」をテーマに選びました。人の「和」はやがて「輪」となり、「輪」は「円」に通じます。この倉陵祭を通じていろいろな円が重なり合い、新たな“縁”へと繋げてほしいと思っています。

今年は、私自身が昨年度の倉陵祭の副実行委員長を務めた経験を生かして、去年の成果に積み上げる意識で取り組みました。また学年、学科がそれぞれ異なる実行委員同士の一体感を保つため、どんな小さなことも共有し、横のつながりの強化を徹底しました。

新企画としては、昨年「巫女体験」の人气が高かったことから、来場者が日本文化を体験できる「伝統体験局」を新設。著装・雅楽・お茶会・書道などこれまで独立して実施していたものを連携してとりまとめ、皇學館らしい体験として打ち出しました。今日まで一緒に創りあげてきたスタッフはもちろん、昨年の実行委員のメンバーもたくさん助けてくれました。みんなに御礼を伝えたいです。



祭典

倉陵祭の成功と安全を祈願し、厳かに執り行われた祭典。実行委員長の足立涼君(神道学科4年)は挨拶で聖徳太子が制定した十七条憲法に出てくる言葉「和を以て尊しとなす」を引用。また、記紀が人と人との調和、共同体の安寧を示していることから、「和」は日本人が持つ古来の精神と伝え、「訪れた人それぞれが新たな和(輪)を見つけてほしい」と語った。



樽神輿

半世紀以上続く倉陵祭伝統の行事「樽神輿」。今年は4基の樽神輿がエントリー。ゲームのキャラクターや神社をモチーフにした神輿などがあり、神道学科4年有志の作品が優勝した。



子供広場

レクリエーション部による恒例の「子供広場」。“家庭ではなかなか作れず、かつ家に帰っても楽しめるものを”と、「スーパーボール」「写真たて」を工作した。30日には地域の子どもたちに向けて「ピーターパン」を上演。多くの親子連れが訪れた。



ステージ

記念講堂前ステージでは雅楽部、能楽同好会、薙刀部などが日本の伝統文化を披露したり、よさこい部、吹奏楽部、奇術部、4教ミュージカルなどが演奏や踊りで観客を盛り上げたりと、多彩なステージで観客を惹きつけた。



講演会

外交ジャーナリスト・作家としてご活躍の手嶋龍一先生をお迎えし、「激動の世紀の行方を読み解く～中口の動向と日米同盟～」と題して講演会が行われた。

アメリカ大統領選挙等についての貴重な講演がなされ、学生はもちろん一般の来場者も熱心に耳を傾けていた。



アーティストライブ

WHITE JAM (ホワイトジャム) によるアーティストライブが行われた。公開中の映画「泣き虫ピエロの結婚式」の主題歌である「咲かないで」をはじめ、数々の曲が披露され、会場は大いに盛り上がった。

皇學館大学
博物館学芸員課程
卒業展示

佐川記念神道博物館では皇學館大学博物館学芸員課程卒業展示(「おふだ・ふだ 一信じるころー」「祝いの節目ー人生儀礼と家族のころー」)が開催された。倉陵祭期間中は展示解説が行われ、学生たちの説明に来館した地元住民らが熱心に耳を傾けていた。



屋内ステージ

総合体育館2階では軽音楽からよさこい踊りまで、23のサークルなどによる学生らしいライブパフォーマンスで観客を沸かせた。

伝統体験

祭式教室や記念館ほかで日本文化に触れる5つの伝統体験が行われた。



著装体験

昨年の「巫女体験」が好評だったことから、今年も巫女装束をはじめ、神事などで神主が着る狩衣、烏帽子などの着付け体験を実施した。女性や外国人に人気が高く、同時開催のオープンキャンパスに訪れた高校生は「想像より軽い着心地。貴重な体験ができてうれしい」と語り、記念撮影で盛り上がっていた。

和楽器体験

邦楽部が中心となり、琴、三味線、尺八などに触れる機会を提供。まずは単純に音を鳴らして楽しむところからはじめ、基本的な譜面の読み方を教えた。ゆっくりと「さくらさくら」などが弾けるようになると、参加者と学生の間に喜びの笑顔がこぼれた。



雅楽体験

雅楽部が中心となり、龍笛、箏、琵琶、羯鼓、鉦鼓、和琴などの和楽器に実際に触れ、演奏できる体験を提供した。見学に訪れた伊勢市の男性は「初めて触れたが、独特の音色がよかった」と語り、楽しんでいた。

お茶会

毎年人気で、伊勢市内からも多くの老若男女が訪れるお茶会。茶道部が中心となり、お抹茶と五十鈴茶屋の倉陵祭オリジナルの和菓子でおもてなしをした。



書道体験

書道部が中心となって作品展示のほか、気軽に書道体験ができるスペースを設置。参加者らは屋外の賑わいから離れ、心を静めて毛筆体験を楽しんだ。



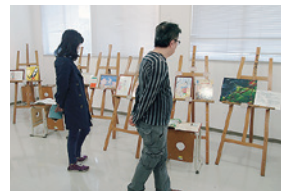
模擬店

芝生広場や記念講堂前広場など屋内外に33の模擬店が出店。パンケーキやワッフルなどのスイーツ、サークルに受け継がれる伝統の唐揚げ、塩焼そばなど、豊富なメニューで来場者のお腹を満たした。伊勢うどんにマヨネーズをトッピングするなど学生らしい楽しみ方を提案するところも。



展示

各棟の教室ではクラブ、同好会などが日頃の活動を披露した。「美術部」は童話の一場面を表現、「華道部」は「花の城」をイメージするなど、いずれもテーマ性、メッセージ性の高い展示が目立っていた。



北の自然・文化に触れ、一回り成長した修学旅行

皇學館高校二年生三七九名が十月四日から三泊四日の日程で北海道へ修学旅行に行った。台風一八号の接近が心配されたものの当初の予定通り無事に実施でき、思いに残る旅となった。以下に生徒の感想を紹介する。

北海道ならではの魅力を満喫

二年四組 西村 果子

四日間の修学旅行はあっという間に過ぎた。出発前は無事に行けるのか心配な部分もあったが、良い思い出をいっぱい作って帰ってくる事ができた。

振り返って一番心に残っているのは三日目の牧場体験だ。牛にミルクをあげたり、

たくさんの方の協力に感謝

二年七組 伊藤 芽生

久しぶりの飛行機にテンションが上がって、北海道に降り立つや気候の違いに驚いた。縦型の信号機、二重になったドアや窓など、気候に合わせて生活の工夫が随所で見られた。また、名菓「白い恋人」の工場、札幌時計台、テレビ塔などの有名な建物、小樽のおしゃれな町並み、トマムや四季彩の丘に向かう途中で見た

雄大な緑の景色など、北海道の魅力を十分楽しむことができた。そして友人の知らない一面もわかり、今まで以上に仲良くなった。バスガイドさんや運転手さん、添乗員やホテル、空港の方々、引率の先生方などたくさんの方の協力があったからこそ楽しい修学旅行になったのだと思う。本当にありがとうございました。



支笏湖をバックに記念撮影

大切なのは順位ではなく団結力

体育大会



力強い、大きな声で宣誓する代表生徒

九月二十七日に開催された今年の体育大会。当日の朝も小雨が降るなど開催が心配されたが、天気は徐々に回復して無事に実施することができた。朝礼台の上から眺める十色のクラスTシャツを着た全校生徒千数百名の姿は、太陽の白い光に照らされ、とても輝いていたことを今でもはっきりと思い出す。

印象に残ったことが二つある。一つは、競技に出ているクラスメイトを誰もが声がかかるほど応援していたこと

だ。その様子を見ると、一人ひとりの仲間に対する熱い思いが感じられ、応援する側も一緒に戦っているように思えた。もう一つは、リレー

競技でトップを争っていた走者同士が衝突し、バトンを落としてしまった時のこと。順位が下がったにもかかわらず嫌な顔一つせず、むしろやる気に満ちた表情で最後まで走り切っていた。私はその時、順位がすべてではなく、大切なのはクラスの団結力だと痛感した。この体育大会を通して間違いなくクラスの絆は深まったと思う。今後のクラスマッチなどでその成果が発揮されることを心から願っている。

総務委員長 山本瑠香

皇中NEWS

新時代を生きる力 養う授業に高評価

オープンスクール総括



タブレットを使いこなす生徒たち

十一月五日、授業公開Day。学校説明会が開催された。二回目を迎える授業公開Dayだが、今年度は通常土曜授業の三・四限目を全クラスで公開。電子黒板機能付きプロジェクトorタブレットPCを活用した、理解を深める授業が展開された。また、少人数のグループに分かれて行われる授業では生徒一人ひとりが積極的に意見を出し、集団で高め合う生徒たちの姿が見られた。

スカイプを使用した授業内

での国際交流も盛んで、この日のゴードン先生による英語コミュニケーションの授業では、グループごとにネイティブスピーカーとの英会話を体験する「バーチャル英会話」が行われた。生徒たちは自分の考えをしっかりと持ち、英語を使って多くの人に想いを伝えようと一生懸命、かつ楽しげに取り組んでいた。

来校いただいた。保護者からは「先生と生徒が一体となっている授業」「生徒がとても意欲的でイキイキとしていた」「少人数、グループなど、公立では難しい授業体制で生徒たちを見てもらえる」などの感想をいただき、本校教育の特色、魅力を存分に体感している。

上/楽しく学ぶ授業スタイル
下/近隣地域から多くの見学者が訪れた

教育勅語の謹書と改めて感じる感謝の思い

家庭に感謝する日の行事

「爾臣民父母二孝二…」と父母への孝養を説いた教育勅語の教えを今一度心に刻むべく、中学校と高校では10月29日に教職員、生徒全員で教育勅語の謹書を行った。教育勅語の謹書は全員分を製本後、明治神宮に奉納される。また、生徒は10月30日の「家庭に感謝する日」にちなみ、家族への感謝をあらわす作文を書いた。左記に中学校の志村茜さんの作文を紹介する。



一字一字、真心を込めて謹書

家族の絆

三年B組 志村 茜

両親は子どもが大好きで、私たち兄弟のことをいつも一番に考えてくれます。でも私は反抗期で親のすること一つひとつにイライラして無視したり、そっけない態度をとったりしてしまいます。けれど、先日、突然、地震が起こって机の下にもぐったとき、最初に両親

親のことが頭の中に浮かんできました。父は仕事の関係で家に帰ってくるのが少ないけれど、それをサポートする母の姿を見ると、夫婦の絆はすごいなと思います。いつもありがとうございます。これからもよろしくお願いします。

校友会の三名に優良生徒賞

第五十二回三重県私学大会

十月八日、津市の三重県総合文化センターにおいて第五十二回三重県私学大会が開催され、皇學館高校三年の村木彩里さん（前校友会総務委員長）と小林聖也君（前校友会総務委員長）、皇學館中学校三年の江藤朋華さん（校友会総務委員長）の三名が優良生徒として表彰を受けた。村木さんは「この受賞は一年間一緒に活動してきた校友会の仲間、生徒の皆さん、そして温かく見守り励ましてくれた先生方のおかげ」と話し、小林君は「今回の受賞をとても嬉しく思います。これを励みに今後何事にも一層努力していきたい」と喜びを語った。江藤さんも「中学校生活すべてのことにおいて関わっていただいた方々に感謝の気持ちを持つとともに、これからも皇學館中学校の代表として気を引き締め、また誰からも今回の賞を認め



皇學館中学校の江藤さん 皇學館高校の村木さん(左)と小林君

てもらえるような生徒でありたい」と笑顔で話した。よりよい学校生活や行事運営をめざし奮闘している三人。今後のさらなる活躍を期待したい。



ペットボトルや空き缶を拾う生徒たち

清掃で地域貢献

中高生徒が清掃ボランティア

皇學館中学、高校の生徒による清掃ボランティアが今年も実施された。青空の広がる十月十日に行われたのは、皇中祭実行委員十九名による五十鈴川清掃と水質調査。昨年に引き続き参加した江藤朋華さんは「他の川に比べゴミが少なく、流れる水も綺麗だと分かる、とても嬉しく誇りに感じた。美化活動を通して地域に貢献する心を育てたと同時に、皇中祭前であった私たち皇中祭実行員の団結力も一層高めることができた」と笑顔で語った。

皇學館高校では十月二十一日午後一時から校友会本部役員、インターアクト部員及び有志生徒による清掃ボランティア活動が行われた。集まった一七名の生徒は各グループに分かれ、向陽台公園、伊勢インターチェンジ、五十鈴川駅、伊勢球場の周辺等で一時間ほど作業。総務副委員長の鈴木優花さんは「一人ひとりがゴミは捨ててはいけないという気持ちを持つとともに、誰かが始末してくれると人任せにするのではなく、自分で処理するという責任感を持つことが大切だと思った」と感想を語った。

「グローバル人材」育成に向け 充実のカリキュラムを展開

皇學館中学校

教務部部長 小林 誠 治



プログラムの全体的なイメージ

国際化や多様化がますます進展する現代社会。そうした社会の変化に対応していくためにも、国際的な視野や豊かな感覚、他者と関わり合うコミュニケーション能力、また主体的に課題を発見・解決する力など、さまざまな能力を身に付けることが必要とされています。また、グローバル社会の中であらゆる国の人々と触れ合い、自己を発信していくためにも、世界共通言語と言える英語の運用力や自国文化・異文化理解も求められます。そういった状況の中で、皇學館中学校では「英語力」「コミュニケーション能力」「異文化理解」をキーワードに「世界で活躍できるグローバル人材の育成」をめざしており、今年度もプログラムのさらなる充実を図るべく多彩な取り組みを展開しております。今回はその取り組みの概要を紹介いたします。

教室で

① English Communication

ネイティブ教員によるコミュニケーション（会話）に重点を置いたオンライングリッシュの授業。一、二年生は週に二時間、三年生は週に一時間実施。三年生は高校ネイティブ教員が担当し、中高接続もスムーズに行う。

教室を越えて

② Conversation Class（会話クラス）

授業で学んだことをもとに、ネイティブ教員と少人数で会話をを行う。全講座とも希望者を対象に現在四十名ほどが参加し、小グループに分かれて毎週月・金曜日の昼休みに実施中。また、六年制高校生にも参加しても

③ 各教科・総合学習

生徒のより主体的・協働的な学びのためアクティブラーニングを推進。確かな基礎知識や技能をしっかりと身に付けた上で、個人思考からペア・グループワーク、プレゼンテーションやディスカッションなどの主体的学習を通して、思考力・判断力・表現力を育成する。総合学習では「自己・他者理解」「自国文化理解」「他国文化理解」と学年進行でテーマを設定し、学習を進めている。

④ 朝スタ

読んだ本に関する書評（レビュー）を朝スタの時間に全員が発表・相互評価し、プレゼンテーション力の向上を図る。文化祭ではクラス対抗で代表が発表した。

⑤ 国際理解・国際交流プログラム

外部事業を活用した国際理解プログラムを実施。六月十六日にはアメリカ人の講師を招き、三年生を対象に英会話やアメリカの生活・学校について講演をしていただいた。

日本を越えて

① Rosehill Secondary College

Skype（インターネットを使ったビデオ通話サービス）交流を介してオーストラリアの姉妹校生徒と交流する。全学年を対象に七月十四日より開始している。

② インターネット・フレンドシップ校交流事業（公益財団法人国際センター）

Hodpittayakom School（タイの交流校）とSkypeやメールを通して交流を行う。第二回交流を六月三十日に二年生を対象に実施後、七月に一、三年生もセッションをスタート。今後も全講座生を対象に交流を進めていく。

③ パーチャル英会話教室（NTTラーニングシステムズ）

Web会議システムを用いたオンライン英会話サービス。ネイティブ外国人講師との会話を通してコミュニケーション力向上を図る。今年度トラ



Conversation Class

④ 海外短期語学研修

研修を通じて英語の理解力や表現力を向上させたり、現地でのアクティビティや生活体験を通じてお互いの国の文化や社会に対する理解を深める。国際的な視野を広げる。今年度は平成二十九年三月十九日（日）～三十日（木）まで十二日間の日程でカナダ・バンクーバーへの語学研修を実施する。



バーチャル英会話教室(NTT)

自然に英語を楽しむ

ENGLISH CAMP 2016



野外ウォークラリーで英語のミッションに挑戦！

十月五日～七日にかけて愛知県豊田市旭高原少年自然の家にて「イングリッシュキャンプ2016」が行われ、全学年から希望者四十名が参加した。主な研修内容は「英語クラス」と「アクティビティ」。生徒は習熟度別に四つのグループに分かれ、それぞれ南アフリカ・ドイツ・カナダ・イギリス出身のネイティブ講師が担当した。「英語クラス」では身近なトピックに基づき会話練習やディスカッションを、「アクティビティ」ではゲームやクイズ、野外ウォークラリーなど頭も体もフルに使いながら楽しく英語で活動した。一日の終わりにはフリートークを設定し、講師と話をしたり、英語の日記を手伝ってもらったりとリラックスした雰囲気の中で英語に親しんだ。参加後、「苦手だった英語が好きになった」「英語を身近に感じ、自発的に話せた」など生徒に大きな成長が見られ、今後の英語学習へのモチベーションアップにつながったようだ。このキャンプでの経験をぜひ今後に生かしてもらいたい。教務部部長 小林誠治

第17回 高校生英語スピーチコンテスト開催

皇學館大学コミュニケーション学科主催
高校生英語スピーチコンテスト



優勝に喜びの表情を見せる木村君（前列右から3人目）と2位の一式さん（その右）、3位の江藤さん

木村君（青山高等学校一年）が初出場＆優勝

「毎日一時間練習した甲斐あった」

本学文学部コミュニケーション学科では十月二十三日、三重県教育委員会・三重県高等学校英語教育研究会・公益財団法人日本英語検定協会・中日新聞社の後援を受け、「第十七回高校生英語スピーチコンテスト」を開催した。

当日は、県内十五校から集まった参加者三十九名がそれぞれ教科書や副読本などを題材に約三分間のスピーチを行った。小道具を使用したり、身振り手振りをつけたりと工夫を凝らした発表もあり、終了後はほっとした顔つきで席に戻った。

し方を先生と相談しながら毎日一時間練習した。今回の結果に満足せず、今後も国際社会に貢献できるよう勉強していきたい」と語った。

審査委員のコミュニケーション学科・クリストファー・メイヨー准教授は、「皆さんのスピーチは、皆さんのスピーチは、

ととてもimpressive（印象的）であった。スピーチの表現や表情の重要性とともに英文の暗唱は英語習得の近道であり、これからも良質な英文に触れるよう努めてほしい」と講評した。入賞者は次の通り。

審査員特別賞	第一位	第二位	第三位
濱崎 万紘さん（宇治山田商業高等学校2年）	木村 俊秀君（青山高等学校1年）	一式 桃乃さん（富田高等学校1年）	野々 紘己さん（暁高等学校2年）
			栢植 美咲さん（皇學館高等学校2年）
			前田 萌絵さん（宇治山田商業高等学校1年）
			長岩 真央さん（松阪商業高等学校2年）
			菊地 アビゲイルさん（名張西高等学校2年）
			蒔田 芽依さん（尾鷲高等学校2年）

イベント情報 (12~2月)

12月 24 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教—神仏習合と明治維新の神仏分離—
「御嶽における神仏習合と神仏分離」
河野 訓 (文学部教授)

1月 7 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
1日・短期講習会
日本最初の法文 聖徳太子の「十七条憲法」
毛利正守 (文学研究科教授)

14 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
古事記を読み解く—神武天皇～孝元天皇の段
「綏靖天皇」 白山芳太郎 (文学部教授)

21 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
『日本書紀』を読む
「葦原中国の平定、皇孫降臨と木花之開耶姫(1)」
大島信生 (文学部教授)

28 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教—神仏習合と明治維新の神仏分離—
「岡山藩 (池田藩)における神仏習合と神仏分離」
河野 訓 (文学部教授)

2月 4 土 岡田登教授 退任記念講演会 231教室
大倭 (日本) 国家の成立と伊勢の大神宮
岡田 登 (文学部教授)

4 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
『日本書紀』を読む
「葦原中国の平定、皇孫降臨と木花之開耶姫(2)」
「海幸・山幸説話と鷓鴣草葺不合尊の誕生(1)」
大島信生 (文学部教授)

11 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
古事記を読み解く—神武天皇～孝元天皇の段
「安寧天皇～懿徳天皇」 白山芳太郎 (文学部教授)

18 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
1日・短期講習会 古文書を読もう—合戦の名前はいつ
付いたのか— 岡野友彦 (文学部教授)

25 土 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
1日・短期講習会 神道の作法—装束と衣紋道—
木村徳宏 (文学部助教)

●各講座の詳細につきましては、本学ホームページにてご確認ください。
●共催講座 (近鉄文化サロン阿倍野) のみ、有料です。お問い合わせは近鉄文化
サロン阿倍野 (☎06-6625-1771) へお願い致します。
●その他お問い合わせは、皇學館大学地域連携推進室 (☎0596-22-8635)
へお願い致します。

編集後記
文部科学省より平成二十
八年度大学等卒業予定者
の就職内定状況 (十月一日
現在) が発表され、本学は
七四・五% (教員専断未定者
除く・十月一日現在) と
全国値を上回る成果を出し
ています (三面参照)。近年、
実学重視の大学改革が議論
されていますが、スキルは
「人間力」という土台があっ
てこそ、建学の精神に基づ
き日本の歴史や文化、先人
の知恵から深い教養、学ぶ
姿勢を身に付けた学生たちが
地域、社会を率いる存在
として活躍してくれると確
信しています。【企画部

「遙宮 (とほみや)」として崇敬を
集めている瀧原宮と瀧原並宮

専攻科の代表として山
室山参拝の献詠をさせて
いただきました。本居宣
長翁の奥墓の前に、学部
の代表生とともに並んだ
ことで、肅々と行われる
祭儀を間近に拝見するこ
とができました。あいにく
天気には恵まれず、祭
儀の途中から小雨が降り
出しましたが、祭儀を執
り行う山元義清部長の動
じないご様子は、和歌を
献詠する際に緊張のあま
りかんでしまった私に
は、実際に奉職する際の

**実践的な訓練で
防災意識が向上**

十月十三日IV講時終了後、学
生・教職員を対象に避難訓練が
行われた。
訓練用の緊急地震速報によ
り、実際に地震が発生した場面
を想定して避難指示がアナウ
ンスされると、学生・教職員は一
斉に避難場所であ
る第一グラウンド
に向かった。
避難後は伊勢市
消防本部職員のご
指導の元、水消火
器訓練と煙発生器訓練を実施。
放水は火の下の方から行うこ
と、煙が蔓延している空間では
身を低くして避難することを教
わった。
実際に訓練を体験した学生か
らは「消火器を使用できる機会
はなかなかないので貴重な体験
ができた」、「煙発生器のテント
の中は視界が遮断され、煙の恐
ろしさを間近で感じた」などの
声が寄せられ、防災意識の向上
につながる訓練となった。

ケント大学夏期英語研修・参加者インタビュー



【8月18日】貴婦人の城・リース城を背景に記念撮影

現地でこそ得られる
視野の広がり

語学力やコミュニケーション能力のほか、視野
を広げ自立心を養う貴重な機会となっている英
国・ケント大学夏期英語研修。今年は八月四日か
ら三十日にかけて実施され、十五名の学生が参加
した。今回は山口向日葵さん (コミュニケーション
学) 希君 (教育) 一年に感想を語ってもらった。
——参加した理由を教え
てください。
山口向日葵 (以下、山口向)
◆本場の英語を学びたか
ったこと、また、世界か
ら見て日本はどういう国
なのか、自分の目で確か
めてみたいと思ったから



山口向日葵さん

山口向◆研修最終日のプ
レゼンテーションです。
日本と英国の住宅につい
てまとめたのですが、一
つひとつの言葉のニュア

山口向◆先生と学生が双
方向、一体となってレッ
スを進めているのが印
象的でした。
山口向◆レッスンの中で
学んだ場所実際にいく
フィールドワークが多
く、とても楽しめました。
——どの授業が苦勞しま
したか？
山口向◆研修最終日のプ
レゼンテーションです。
日本と英国の住宅につい
てまとめたのですが、一
つひとつの言葉のニュア

山口向◆「僕もプレゼンテ
ーションが印象に残って
います。初めてのプレゼ
ンで何もわからず困って
いたところ、先輩が助け
てくれたので、何とか乗
り切ることができました。
——現地で「日本や」皇
學館」を意識した出来事
はありますか？
山口向◆「What's the
charm of Japan?」 (日
本の魅力は何ですか?)
と聞かれたときに答える
ことができませんでした
た。自分の国のことをも
っと勉強しなくてはと反
省しました。

山口向◆「Tastes of
Japan」の行事で英国の
方がお茶をたてる機会が
ありました。日本人は普
通に正座していました
が、外国の人にとっては
難しくできない人もい
て、驚きました。
——研修を通じて成長し
たと思うことは何ですか。
山口向◆聞き取り能力と
積極性が身に付いたと思
います。また、現地には
個性的な方が多く、私も

山口向◆「僕もプレゼンテ
ーションが印象に残って
います。初めてのプレゼ
ンで何もわからず困って
いたところ、先輩が助け
てくれたので、何とか乗
り切ることができました。
——現地で「日本や」皇
學館」を意識した出来事
はありますか？
山口向◆「What's the
charm of Japan?」 (日
本の魅力は何ですか?)
と聞かれたときに答える
ことができませんでした
た。自分の国のことをも
っと勉強しなくてはと反
省しました。

山口向◆「僕もプレゼンテ
ーションが印象に残って
います。初めてのプレゼ
ンで何もわからず困って
いたところ、先輩が助け
てくれたので、何とか乗
り切ることができました。
——現地で「日本や」皇
學館」を意識した出来事
はありますか？
山口向◆「What's the
charm of Japan?」 (日
本の魅力は何ですか?)
と聞かれたときに答える
ことができませんでした
た。自分の国のことをも
っと勉強しなくてはと反
省しました。



山口希君

周りに流されず自分の意
思を大切にしようという
気持ちになりました。
山口向◆相手の言いたい
ことを理解し、適切に答
えられるようになりました。
た。きれいな会話表現で
なくても通じることがわ
かり、自信がついた部分
もあります。
——語学力をアップする
に、どのような勉強法
が効果的だと思いますか。
山口向◆現地の人と直接
話すことだと思います。
今回は寮だったので、次
回はホームステイをする
など、周りに日本人がい
ない環境で学ぶのが有効
だと思います。

歴史、先輩諸賢に思い馳せ

参拝見学・山室山参拝

本学恒例の参拝見学・山室山参拝が十一月八日に行われ、文学部 (一
四年)・教育学部 (二年) 及び専攻科の学生、教職員が参加した。以下に学
生の声を紹介する。

背筋が伸び気持ち一新

国文学科二年 小島 春 菜

二年生が参拝見学した
瀧原宮・瀧原並宮は神宮
の別宮であり、一二五社
ある神宮の宮社のうち船
が納められた御船倉のあ
る珍しい宮社ということ
を初めて知りました。ま
た、御船倉は古代以来の
宮川の水上交通を象徴し
ているものと教わり、当
時それほど船が交通手段
として重宝されていたか
をうかがい知ることがで
きました。バス駐車場の
側にあった木つつ木館で

は大内山牛乳のソフトク
リームをいただきました。
た。お店の方も観光客の
方も親切に話しかけてく
る貴重な体験です。来
年の参拝見学も楽しみです。

学生の発議で始まった山室山参拝

専攻科 山本 康 太

専攻科の代表として山
室山参拝の献詠をさせて
いただきました。本居宣
長翁の奥墓の前に、学部
の代表生とともに並んだ
ことで、肅々と行われる
祭儀を間近に拝見するこ
とができました。あいにく
天気には恵まれず、祭
儀の途中から小雨が降り
出しましたが、祭儀を執
り行う山元義清部長の動
じないご様子は、和歌を
献詠する際に緊張のあま
りかんでしまった私に
は、実際に奉職する際の

WEEK 1	木	金
9:00~12:30	中部国際空港 ↓香港乗継 ロンドン ヒースロー空港	オリエンテーション キャンパスツアー 開始レバテスト
14:00~15:30	フィールドスタディ (カンタベリー大聖堂)	日本文化発信行事 'Tastes of Japan'
18:00~20:00		課外活動

WEEK 2	月	火	水	木	金
9:00~12:30	英語レッスン	英語レッスン	英語レッスン		英語レッスン
14:00~15:30	フィールドスタディ (カンタベリー)	英語文化 プロジェクト ワーク	英語文化 プロジェクト ワーク	フィールドスタディ (ケンブリッジ)	
18:00~20:00		課外活動	課外活動		課外活動

WEEK 3	月	火	水	木	金
9:00~12:30	英語レッスン	英語レッスン	英語レッスン	英語レッスン	英語レッスン
14:00~15:30	英語文化 プロジェクト ワーク	英語文化 プロジェクト ワーク	英語文化 プロジェクト ワーク	フィールドスタディ (リース城)	
18:00~20:00		課外活動	課外活動		課外活動

WEEK 4	月	火	水~
9:00~10:30	英語レッスン	英語文化 プロジェクト プレゼンテーション	
11:00~12:30	終了レバ テスト		ロンドン ヒースロー空港 ↓香港乗継 中部国際空港
14:00~15:30	英語文化 プロジェクト ワーク	修了式 フェアウェル パーティ	
18:00~20:00		課外活動	



修了式後にケント大学の恩師
たちと